

1. 活動先

特定非営利活動法人 「学童保育ざりがにクラブ」

2. 活動先の概要

目的

共働き、母子、父子家庭の子どもたちの放課後及び学校休業日の生活を保障することによって、児童の健やかな発達を援助し、家族の生活や働く権利を守るという学童保育の役割を果たし、また地域の子育て事業及び団体と共同して健全で豊かな地域社会を築くこと。

NPO 法人学童保育ざりがにクラブは、元々1979年から何の補助もなしで個人の家で学童保育を行っていた。その後児童館で行うことを東海市から勧められたが、児童館での学童保育では家庭のようにはないという親たちの想いがあった。そこで、空き地を借りてプレハブを建て、子どもを集めることになった。すべて自分たちでつくったために何度も手直しをしている。そして2003年によりやくNPO法人化された。土地が広くないため、子ども50人が集まるとかなり狭くなる。また、2006年に第2学童「荒尾どんぐりクラブ」を開設。同時に障害児の放課後支援も開始。2009年に阿久比町の学童保育「げんきッズ草木」「げんきッズ東部」を継承受託し、運営を始めた。

ざりがにクラブは、主に3つの事業を行っているNPO法人である。3つの事業とは①学童保育に関する事業②子育て支援に関する事業③障害児の地域活動支援に関する事業である。学童保育は母子家庭・父子家庭・共働きの子どもの放課後・学校休業日の預かりをしている。子育て支援では、半島縦断サイクリングやシアターにこのような親子で参加する行事がある。障害児の地域活動支援は日中一時支援として学童保育と一緒に預かりをしている。

ざりがにクラブの年間行事計画として、4～6月はお花見遠足・潮干狩り・草花あそび、7～8月は夏休みの行事・キャンプ・工作・遊びの教室・他学童交流、9～12月は秋の遠足・サイクリング・ナイトウォーク・記念誌発行・遊びの教室発表、1～3月は正月行事・学童ほいく祭・卒業を祝う会がある。また、放課後学童保育で行うことは、おこづかいデー・ゲームデー・宿題・おやつなど、室内でできることが主であるが、指導員が付き添う・集団で行動することで外あそびもできる。

3. SL活動プログラム

私たちは子どもたちと一緒に夏休みの思い出を作ることを目的として6日間活動をした。

1 日目 海水浴

活動初日にざりがにクラブの子どもたちと電車に乗って海に行った。初日ということもあり私たちも子どもたちもお互いに初めて会うということで緊張していた。そんななか指導員の企画で砂浜で宝探しをすることになり、そこで私たちが子どもたちと絶対に関わる機会を作ってもらえたため、早くから馴染めた。

2 日目 うどんづくり、流しそうめん

私たちの企画でうどんを作った。夏休みで1日の流れが決まっていたため、他のことをしている子が多く、最初は数人で作っていたが徐々にうどんづくりに興味をもって参加してくれた。

流しそうめんの台は鳴海さん(ざりがにクラブ理事長)に用意してもらい、組み立てはうどんづくりに参加していない子が鳴海さんと一緒に行った。私たちがそうめんやうどんを流し、子どもたちに楽しんでもらった。途中で流し台の位置によって麺がすくえないということでもめた。

3 日目 プール

車で知多海浜プールに行った。円形プールと深いプールにわかれているため身長によって泳げる場所が決まっていた友達と一緒に場所に行けない子もいた。休憩中指導員からお小遣いをもらいおやつを買いに行くときその場でいくら掛かるかを計算している子もいたのでお金の使い方が学べるいい勉強になっていたのではないかと思った。

4 日目 記念行事のプレゼントづくり

東海市立市民活動センターで記念行事のときに子どもたちに渡すプレゼントのビュンビュンゴマをつくった。子どもたちに渡すものだから色紙の表面にのりがはみ出さないように気をつけた。

5 日目 記念行事

ざりがにクラブが設立して30年の記念行事として人形劇を観た。ざりがにクラブ・どんぐりクラブ・げんきッズ草木・げんきッズ東部の子ども約100人が集まる中で私たちは事前に考えてきたクイズをやり、初めて会う子たちとも関わった。今回は東海市の教育委員会の後援をもらうことができた。

6 日目 まとめ

サービスマーケティング 5 日間の振り返りを鳴海さんと 3 人で行った。5 日間の活動を思い返して反省点や良かった点などを話し合いまとめることができた。また、ざりがにクラブのことも改めて聞いた。

全日子どもたちと戯れた。けんだま検定、マンカラ（ビーだまを使ったボードゲーム）大会、他にもざりがにクラブにあるおもちゃで遊んだり、外に出て遊んだりした。親が迎えにくるまでの時間を決められたことだけではなく子どもたちが自分たちでやりたいことをしているときに一緒に遊んだり、いろいろな話をした。

4. 活動のふりかえり

感じたこと・気づいたこと・学んだこと等

● 私たちについて ●

- ・初日は子どもたちと仲良くなれるのか、不安と緊張でいっぱいだった。いきなり 50 人近くの子どものと関わるのはハードルが高いと思っていた。実際は子どもたちが話しかけてくれたため、比較的早い段階で馴染むことができた。
- ・初日に海水浴ということで名前と顔が一致していない状態だったため、危険を伴う海に行くのはかなり怖かった。遠くに行ってはいけないのに行ってしまう子がいて、追いかけるのが必死だった。
- ・6 日間の活動を通して子どもたちの名前を全員覚えることができなかつたので早く覚えるために子どもたちに名札を付けてもらえばよかったと思った。そうしたら子どもたちとの関わりがスムーズに行えると感じた。
- ・プールに行ったとき近くにいた子どもが怪我をしてしまったのに一緒に遊んでいた子どもに目がいって気付かなかつたことがあったので周りを常に意識して見る必要があることを学んだ。

● ざりがにクラブについて ●

- ・ざりがにクラブがこれから地域の人たちにざりがにクラブのことを知ってもらうために何をしていかないといけないのか学んだ。その中に記念行事で見た人形劇をまた行い一般の人を招くことがある。
- ・子どもたちとの接し方では例えば話すときにアニメやマンガ、ゲームと言った子どもたちが好きそうな内容を出すと喜んでくれることを学んだ。そのためには、アニメやマンガ、ゲームのことを知っておく必要があるので調べたりした。
- ・1 日の流れはゲームできる時間、遊べる時間、勉強する時間などが設けてあり 1 日のメリハリをつけていることがわかつた。
- ・建物がとても狭いので長期休みなどで 50 人もの子どもたちが集まると遊ぶときにと

でも窮屈なのではないかと感じた。

●子どもたちについて●

- ・障害を持った子がいて低学年の子どもたちはゲームなどを一緒にして普通に遊んでいたが中高学年の子どもたちは障害を持った子が遊ぼうとしていても避けているように感じた。

●企画について●

- ・うどんづくりでは宿題など他のことをやる時間だったためうどんをつくろうと誘っても興味を持って参加してくれる子が少なかった。しかし、うどんづくりをしていると興味を持ってくれる子が出てきて手伝ってくれたので無理に誘うより待つことによって興味を思ってもらう時間をつくることも大切だと思った。
- ・流しそうめんをしたときにそうめんを流すところから近い子どもたちと遠い子どもたちでは食べられる量が変わってきてしまうので前の方の子どもたちと後ろの方の子どもたちの場所を変えたり、制限時間を設けてみんなが平等に食べられるようにする必要があると学んだ。

5. おわりに

6日間サービスラーニング活動をさせていただいた NPO 法人学童保育ざりがにクラブの理事長さんの鳴海さん、指導員の方々本当にありがとうございました。鳴海さんや指導員の方々のお陰で無事6日間を終えることができましたと思います。

私たちは子どもとの関わり方、ざりがにクラブがどのようなNPO法人なのかなどを学ぶことができました。最初はなにもわからない私たちでしたが、6日間活動させていただいたことでざりがにクラブの子どもだけではなく他の学童の子どもたちとも関わり、活動前とは違う関わり方が学べました。

この6日間で学んだり、考えたことをこれからの学習や生活に活かしていきたいと思えます。最後に本当にお世話になりました、ありがとうございます。